町長からのメッセージ

86 がん検診事業について

昨年の「広報よしだ」10月号に「女性のがん検診事業について」というタイトルで「女性にとって最大の脅威は各年代を通じてがんであり、このことを考えれば、がん検診に力を入れなければならないことは明白である」ことを述べました。

健康づくりには、三つの方向からの施策が必要です。まず、食育に意を注ぎ、基礎的な身体づくりに努めること、次いで、直接的な健康づくりとして体力の維持・増進を図り、病気になりにくい身体づくりを行うこと、最後に、間接的な健康づくりとして病気の早期発見のため各種の検診事業を整備することが不可欠であると考えています。もちろん、全人的な健康づくりには身体面の健康づくりばかりではなく、精神面の健康づくりも必要であることは十分承知していますので、いつか精神的な健康づくりの施策についてお話ししたいと考えています。

先日、健康づくり課に対して、がん検診についての広報に力を入れ、受診率を向上させるように指示を与えました。受診率が向上しない理由の一つに、「がん検診事業」について周知徹底が図られていないことが挙げられます。

左のページには、当町が実施しているがん検診事業の概要を載せてあります。がん検診には費用が掛かりますので、当町では、町民の皆さまにできる限り少ない自己負担で自発的にがん検診を受けていただけるように助成を行っています。

今後は、がん検診の受診対象者にもれなくお知らせし、ご自分が対象者であることを自覚していただき、がん検診に少しでも関心をお持ちくださるよう広報に努めたいと考えています。

女性のがん検診事業について

昨年の第3回議会定例会において、勝山議員から女性のがん検診事業について質問があり、受診率の向上に意を注ぐことをお約束しました。

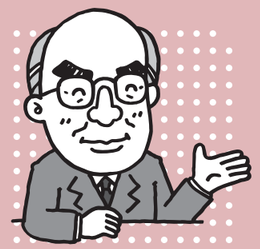
受診率の向上を図ろうとすれば、直接的な施策と間接的な施策について考える必要があります。まず、直接的な施策ですが、がん検診に対するインセンティブ、すなわち、自発的ながん検診の受診を促す手立てが必要です。具体的には、がんが恐ろしい病気であること、自分ががん検診の受診対象者であること、がん検診には町から多額の助成があり、少ない自己負担で受けられることを周知するとともにでき得れば休日でもがん検診が受けられる環境を整備することなどの手立てを講ずることです。

次いで、間接的な施策ですが、これには家庭における女性の役割が挙げられます。前に述べたように、女性にとってがんは各年代を通じて最大の脅威であることから、各家庭においてがん検診の重要性を自覚していただくとともに、家族の間でがん検診に対する意識を高め、積極的に受診することなどがんの予防に効果的な家庭環境をつくることが挙げられます。

女性の受診率の向上について

現在、来年度の予算編成が進められていますが、がん検診において受診率の向上のために予算の裏付けを考えています。がん検診の受診率の向上には女性の果たす役割が大きいと考えられますので、女性特有の乳がんや子宮頸がんはもちろんのこと、女性のがん死亡の最も高い大腸がんの検診枠の拡大のための予算の増額を検討しています。具体的に言えば、それぞれのがん検診の受診率はおおむね30％台前半に留まっていますので、この割合を50％に持っていこうと考えています。受診率50％は日本では極めて高い数字ですが、欧米では子宮頸がんに例をとれば、その受診率は約80％であるのに対して日本では約20％ですから、まだまだ胸を張れる数字ではありません。

また、先ほどもお話ししましたが、対象者にはもれなく通知して注意喚起を図り、さまざまな催しにおいてうまずたゆまず、がんやがん検診などについて声をかけ、女性の皆さまに強く訴えてまいりたいと思います。



今後のがん予防の対策について

先日、日本でも子宮頸がんのワクチンがようやく認められ、発売され接種が始まりました。国内では、子宮頸がんで毎年1万人以上が発症し、約3,500人が亡くなっています。がんのうち、子宮頸がんはワクチンで予防できる唯一のがんですから、いずれこのワクチン接種の助成についても検討しなければならないと考えています。

また、胃がんは依然として、わが国における重大ながんの一つであり、毎年11万人が発症し、約5万人が亡くなっています。胃がんを引き起こす原因の一つと言われるピロリ菌の除菌は胃がんの予防に効果があると言われますので、このピロリ菌の除菌に対する助成も検討したいと思います。

子宮頸がんのワクチン接種には4万円から6万円の費用が、ピロリ菌の除菌には2万円から4万円の費用がそれぞれ掛かります。子宮頸がんのワクチン接種によって子宮頸がんにかかる人および死亡者をともに7割程度減らすことができ、ピロリ菌の除菌の成功率は85％程度と聞けば、ぜひとも助成したいところですが、現在の財政状況を見極めた上での選択というのが実情です。

がん検診事業

検診種類（実施時期）	検診方法	対象年齢	検診料金	自己負担額	受診人数 H19年度	受診人数 H20年度
肺がん（5月）	胸部X線	40歳以上	1,155円	無料	3,956人	3,704人
	喀痰細胞	40歳以上	1,995円	500円	39人	133人
大腸がん（5月）	便潜血	40歳以上	（1検体）1,207円	500円	2,126人	1,931人
			（2検体）2,100円	500円		
胃がん（8月～10月）	胃部X線	35歳以上	4,095円	1,200円	1,396人	1,273人
乳がん（6月～12月）	視触診 マンモグラフィ	40歳以上（隔年）	（1方向）5,775円	1,500円	651人	628人
			（2方向）7,875円	1,500円		
子宮がん（6月～12月）	子宮頸部	20歳以上（隔年）	3,885円	1,000円	867人	730人

※検診料金は、最も高い料金を記しています。

あなたのご意見、ご感想をお聞かせください！ E-mail：soumu@town.yoshida.shizuoka.jp